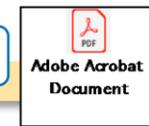


	6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
単元名	学びのとびら	1 → 1	ひき算のひっ算	8 → 7	3けたの数	12 → 11	水のかさのたんい	8 → 7	たし算とひき算のひっ算	10 → 9	かけ算(1)	22 → 21					長いものの長さのたんい	6 → 5	はこの形	5 → 5
	グラフとひょう	3 → 3	どんな計算になるのかな?	2 → 2			時こくと時間	2 → 2	長方形と正方形	10 → 9			九九ビンゴ	1 → 1			たし算とひき算	5 → 5	計算ピラミッド	2 → 2
	たし算のひっ算	8 → 7	長さのたんい	9 → 8			計算のくふう	5 → 4					かけ算(2)	17 → 16			分数	5 → 5	2年のふくしゅう	4 → 0
															4けたの数	11 → 10				
時数減の方向性	【たし算のひっ算】定着を確認するたしかめようの終末問題を、家庭学習との連携を図り削減。		【ひき算のひっ算】定着を確認するたしかめようの終末問題を、家庭学習との連携を図り削減。 【長さのたんい】定着を確認するたしかめようの終末問題を、家庭学習との連携を図り削減。		【3けたの数】定着を確認するたしかめようの終末問題を、家庭学習との連携を図り削減。		【水のかさのたんい】定着を確認するたしかめようの終末問題を、家庭学習との連携を図り削減。 【計算のくふう】定着を確認するたしかめようの終末問題を、家庭学習との連携を図り削減。		【たし算とひき算のひっ算】定着を確認するたしかめようの終末問題を、家庭学習との連携を図り削減。 【長方形と正方形】定着を確認するたしかめようの終末問題を、家庭学習との連携を図り削減。		【かけ算(1)】定着を確認するたしかめようの終末問題を、家庭学習との連携を図り削減。		【かけ算(2)】定着を確認するたしかめようの終末問題を、家庭学習との連携を図り削減。		【4けたの数】定着を確認するたしかめようの終末問題を、家庭学習との連携を図り削減。		【長いものの長さのたんい】定着を確認するたしかめようの終末問題を、家庭学習との連携を図り削減。		【2年生のふくしゅう】2年の学習内容について、既習内容の理解を確認する問題を、家庭学習との連携を図り削減。	

カリマネ要領へGO!



評価規準へGO!



単元情報	グラフとひょう		ひき算のひっ算		3けたの数		水のかさのたんい		長方形と正方形		かけ算(1)		かけ算(2)		4けたの数		たし算とひき算		はこの形	
	ゴールの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフや表に整理すると、みんなの特徴がつかえて、便利だね。</li> <li>クラスのみんなでもっと仲良くするために、表やグラフを使うとどんな遊びがいいのかわかるね。</li> <li>〇の数に注目すると、一目で一番多いものと少ないものがわかって便利。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>たし算のひっ算と同じように、2けたのひき算も筆算を使えばできそうだよ。</li> <li>計算のやり方を振り返ってみると、位同士でひけない時は、1年生の学習のように、次の位から借りてくれば引くことができたよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>100のまとまりがいくつかに着目すると、もっと大きな数も数えられるようになるね。</li> <li>これまでと同じように数えると、100のまとまりをつくと、数えやすくなって便利だね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かさも長さも、もともになるものの幾つ分で表しているんだね。</li> <li>LやdLマスを使うと、みんなが同じかさを測って便利だね。</li> <li>わたしの水筒は、1L 2 dL水が入ったよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四角形は、直角や辺の長さに注目すると、長方形と正方形に分けられるんだね。</li> <li>長方形や正方形はすき間なく並べていくと、綺麗な模様ができるよ。</li> <li>本は長方形。ハンカチは正方形。身の回りにはたくさんの正方形や長方形の形をしたものがあるよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かけ算を使うと、式が短く、簡単に表せることができるとも便利だよ。</li> <li>これまでの学習と同じように、身の回りからまとまりをみつけることができるよ、かけ算が使えるようになるよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7の段は、3の段と4の段の九九を使うと、つくることができるね。</li> <li>九九表を使うと、9の段より大きい九九もできそうだよ。</li> <li>倍の長さを求めるときも、かけ算を使うことができるんだね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでと同じで、千が10個集まると新しい位が作られるんだね。</li> <li>1つずつ数えると、とても大変だけど、新しい単位をつくと簡単に数えることができるようになるね。</li> <li>もっと大きな数になっても、同じようにまとまりをつくれれば数えられるよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図を使うと、何算かわかるようになって便利だね。</li> <li>たし算とひき算は、反対の関係になっているんだね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>箱の形は、正方形や長方形が組み合わさってできているんだね。</li> <li>箱の形は、どれも面が6つで、辺が12本、頂点が8つでできているんだね。</li> <li>教室も箱の形になっているんだね。</li> </ul>									
	備考	グラフや表をかくことの技能面が強調されがちだが、グラフや表に表すことで資料の特徴や傾向を読み取ることが大切である。この学習が3年の棒グラフと表の学習に繋がる。	ここで育成される資質・能力は、今後の3桁のひき算の筆算や小数のひき算で繰り返し使われる。そのため、計算の仕方を考えたり説明したりする活動を重視する。	100までの学習では、10のまとまりとその幾つ分で数を捉えてきた。本単元は、数を拡張し、1、10、100を単位として数えることで、何を1とみるかという見方を育てていく。	長さの学習と同様に、水のかさを測るには、共通の単位があれば便利だということから、単位を導入することが大切である。他のかさの学習と測定方法を関連付けながら指導していくようにする。	三角形や四角形の指導と同様に、形式的に指導することなく、辺の長さや直角といった図形の構成要素に着目して、長方形や正方形の意味や性質について指導する。	1つ分の数が決まってい、そのいくつ分にあたる大きさを求める場合に、乗法が用いられることを理解する。乗法九九を生活や学習の中でも活用することが大切である。	乗法の性質や、交換法則、分配法則などを構成して、児童自らが九九を構成していくことを重視する。また、九九表を活用することによって、九九をさらに広げていけるようにする。	これまでの既習と同様に、まとまりを作りながら数える活動を通して、数範囲を、10000まで拡張して十進位取り記数法についての理解を一層深めることが大切である。	たし算とひき算の相互関係について理解し、部分や全体の数量関係に着目し、図や式を用いて説明できるようにすることができるよう指導を図る。	ここで面の面を写し取る体験は、4年の展開図の学習に繋がっていく。面を写し取る作業を通して、面の形、数、その位置関係について捉えられるように指導する。									
ゴールの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>数字が大きくなっても、位ごとに見れば、簡単に計算ができて便利だね。</li> <li>筆算ができれば、買い物したときに代金を求められそうだね。</li> <li>3けたより大きな数の計算でも、筆算を使えば簡単に計算できそうだね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>センチメートル(共通の単位)を使うと、正確に長さが伝えられてとても便利だね。</li> <li>教室の中にも、たくさんの長さがあるよ。</li> <li>センチメートル(共通の単位)を使うと、離れている人にも長さが伝えられるね。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>かけられる数とかける数が逆になっても、答えは、同じになるんだね。</li> <li>答えが同じでも、かけられる数とかける数が逆になっていると、問題場面の表している意味が違うんだね。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>分数を使うと、等しく分けた大きさを表すことができるようになるんだね。</li> <li>分数は、同じ数ずつ分けるときにも使えて便利だね。</li> </ul>											
備考	たし算の筆算方法を身に付けられれば、どんな桁数が増えても、答えを求められるよさがある。正確に計算結果を求めるのに、筆算が有効であることを理解できるようにする。	1年生では、任意単位による測定を通し、数値化のよさを感じ取ってきた。2年生では、普通単位を用いることで、どこでも同じように長さが測定できるよさを感じ取れるようにする。				乗法の場面を絵やアレイ図、ブロックなどの半具体物で表すことで、「1つ分の数」に着目したり、その「幾つ分」と捉えられるようにすることを大切に学習展開にする。			2年生では、分数の素地を養い、その意味を実感できるようにする。また、1/2、1/3、1/4などの大きさをつくる活動を通して、乗法及び除法の見方の素地指導を行う。											